



令和元年度～令和2年度

活動報告



令和3年3月

富山経済同友会 文化スポーツ委員会

目 次

<u>1. はじめに</u>	1
<u>2. 特別寄稿</u>	
八雲雑感（特別顧問 中尾 哲雄）	2
富山経済同友会の本領（高岡市万葉歴史館館長 坂本 信幸）	4
小泉八雲の「オープン・マインド」なまなざしを現代に （小泉八雲記念館館長 小泉 凡）	5
<u>3. 委員等投稿</u>	
2019・2020 委員会活動を振り返って（委員長 五十嵐 博明）	7
活動報告（副委員長 小竹 秀子）	8
文化スポーツ委員会に参加して（副委員長 小柴 順子）	9
文化スポーツ委員会活動報告（副委員長 嶋 龍仁）	9
「時間旅行を楽しむ」（副委員長 高瀬 幸忠）	1 1
「小泉八雲が見た日本の庭」（委員 久郷 慎治）	1 1
富山を知る（委員 島田 好美）	1 2
文化スポーツ委員会を振り返って（担当役員 白倉 三喜）	1 3
高岡万葉まつり「第30回全万葉集20巻朗唱の会」の思い出（事務局長 有藤 直樹）	1 5
言葉の力 ～事務局員として得た貴重な経験～（事務局 吉川 賢一）	1 6
<u>4. 活動の記録</u>	
（1）令和元年度	1 8
（2）令和2年度	1 9
<u>5. 委員名簿</u>	2 0

1. はじめに

本委員会は2018年度までの芸術文化委員会を前身とし、これに地域創生委員会にて実施されてきた「同友会の日」を加え、2019年度より新たに「文化スポーツ委員会」として再編された。そして「文化とスポーツに親しみ、経済人としての資質向上を目指すとともに、地域プロスポーツの応援を通じて地域活性化に貢献する」を活動方針に掲げスタートした。

2年間にわたり、万葉集・小泉八雲・富山の歴史に残る芸術・同友会の日などを軸にして委員会を重ね、会員定例会も2回主管させてもらった。活動を通して、この富山の地には大変貴重な文化・芸術・名所旧跡（宝の山）が数多く在ることを再認識させられた。それをもっと生かす工夫が必要であろう。コロナ禍でも出来る限りの活動を行ったつもりではあるが、造詣の深い委員の皆様の心を満たすまで至らなかったのではと少し反省している。

当初掲げた活動方針をどこまで達成できたかは分からないが、2年間ご協力いただいた多くの皆様に心より感謝を申し上げます。

富山経済同友会文化スポーツ委員会委員長
株式会社サプラ 相談役 五十嵐 博明

八雲雜感

特別顧問 中尾 哲雄

青冥寮（蓮町の富山大学寮）の近くにヘルン文庫があった。肺結核を病んでいたが、気分のいい日にはヘルン文庫へ行った。たくさん読んだが「耳なし芳一」や「稲むらの火」(a living God) から読んだ。卒業後もずっとハーンといっしょにいたように思う。「知られぬ日本の面影」のなかの「英語教師の日記から」は、かなり長編だが内容は変化に富み、ハーンの共感と愛情が織りなす絵のようであった。

ハーンが日本に来てはじめて書いた「日本^{べっけん}警見記」の最初の文章（極東の第一日）は、次のような書き出しである。

「横浜の町にあふれる毛筆の文字は人々の身ぶりや顔に劣らずものを言う」。その筆跡の印象と出会う人々の表情をハーンは同じように解説すべきものと見ているのである。

私はメール・インターネットなど情報通信の日本の業界の会長を長く務めていたが、メールは好きになれなかった。「通信とは信を通わせること」を信条としてきたから大切なことはペンや毛筆で書いてきた。ハーンを読んでその思いを強くしたのであろうか。

ハーンは日本の障子にも強い愛着をもっていた。「対岸の家々の幅広い障子が、目に見えないランプの柔い黄色味を帯びた光をいっぱい受けているのが見える。そして、その明るい紙の^{おもて}面に、優美な女たちのほっそりした影法師が動いている。日本でガラスがあまり使われないことがないように、これは私の心底からの願いである。」（知られぬ日本の面影）

ハーンはまた、樹木にも深い愛をもっていた。^{こぶ}瘤寺の境内に森があり、大きな榎の老木があったが、それが伐り倒されることになった。大きな枝が折れたからであった。

ハーンは榎の霊に憐れみを垂れ給えと関係者に頼んだが、良質の燃料になるといって倒し

てしまうのである。ハーンは見るに忍びなく大久保へ転居してしまった。

昔の人々は山で木を伐るときは、山の神に向って「木を一本ください」と言った。木に余計な痛みを与えぬよう「静かに伐れ」とも言ったという。いまはそんな心は消えてしまったのであろうか。

ハーンの「怪談」の中に「虫の研究」があるがぜひご一読願いたい。

さて、ラフカディオ・ハーンは明治二十二年に来日しているが、来日前にパーシバル・ローエルの「極東の魂 — The Soul of The Far East」を読み、日本に関心を持ったという。ローエルはハーンより七年はやく来日し、約十年滞在している。

ローエルには、日本は地球の裏側にあつて、すべてにおいて西洋人の慣習の逆を行く民族に見え、極端な家族主義、家父長制が支配していて、人々は全く没個性であり、發育不全とまで言いきっている。そして西洋文明を積極的に取り入れていかなければやがて終焉するに違いないと断定している。

私が八雲を大好きになったのは、もちろんその著作にあるが、それよりも小泉セツさんと結婚して日本に住んでみて、「ローエルの日本人論は恐るべき推論」だとして、自分の日本人観を変えていくところにある。

個性がないのではなく、ただその色彩が違いにすぎない。没して見える個性は日本人の天性の謙虚さであり、個を抑えて折れ合って、いわゆる折り合いをつける折衷主義はむしろ日本人の特性とまで見るようになっていくのである。

ハーンが日本人の特性とみなしたのは、親切、礼節、自制心、献身、親孝行、信義、そして少しばかりのもので満足する能力などである。旧日本社会はこのような特性をもって支えら

れていたであろう。

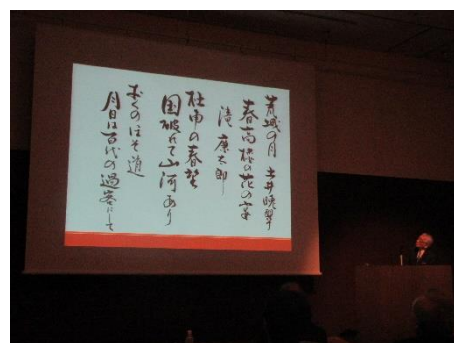
八雲が日本人の特性とした謙虚な個性も個を重視する傾向が強まる中で、俺が俺がの個性重視となり、組織、地域、社会、国等よりも個が重要との風潮を生んでしまった。連帯感はずますます希薄になってしまった。連帯、絆を回復しなければこの閉塞的状況は克服できず、わが国はやはり崩壊に向かっていくのでは

なかろうか。何を失ったかを考えていると気は滅入ってしまうが、われわれはいま喪失の意識まで喪失しているのではなかろうか。

五十嵐委員長から八雲について書けとの指示であったが、ヘンなところへ行ってしまった。お許し願いたい。

(富山八雲会会長)

<中尾特別顧問による講演会（今次委員会）>



第8回委員会（講演会「美しい日本のことば」令和2年1月31日）



第10回委員会（講演会「小泉八雲と富山」令和3年8月26日）



富山経済同友会の本領

高岡市万葉歴史館 館長 坂本 信幸

元号が「令和」となった2019年、五十嵐博明文化スポーツ委員長から、「元号の『令和』は万葉集が典拠ということなので、万葉集の勉強をしようと思うので協力願いたい」との依頼を受けた。喜んでお引き受けしたのだが、驚いたのはその内容であった。何と、五十嵐委員長は、①万葉勉強会、②越中万葉勉強会、③越中万葉故地めぐり、④奈良方面万葉研修旅行（1泊2日）、⑤短歌作り勉強会、という計6日間にも及ぶ充実した勉強会を希望されたのである。通常は、「令和」という元号に関わって、万葉集についての講演を1度聞きたい、という依頼があるくらいで、複数回に及ぶことはない。万葉集について知っていただけるよい機会をいただいたということで、①④⑤については私が、②③については学芸課長の新谷秀夫が担当することとし、9月5日から勉強会が始まった。会員の皆様はそれぞれ経済人として重要な立場にあり多忙であるにも関わらず、時間を割いて参加され、熱心に聴講

してくださり、大変話し甲斐があった。勉強会を終えると、懇親会が開かれ、皆様と交流できたのも喜びであった。研修旅行では大神神社^{おおみわ}で昇殿参拝をした。祭神の大物主大神は疫病を鎮めた神である。富山県にコロナの感染者が少ないのは御利益と私は勝手に思っている。

優れた経済人は、優れた文化人でもある。渋沢栄一が『論語』を徳育の規範とし、『論語と算盤』を著し、「道德経済合一説」という理念を唱えたことはよく知られているが、孫の渋沢敬三も日本を代表する経済人でありつつ、「アチック・ミュージアム」（日本常民文化研究所の前身）を開設、宮本常一らを育成し、自らも民俗学者として功績を残している。思えば、特別顧問の中尾哲雄氏も歌人であり、小泉八雲を愛する文化人である。五十嵐委員長の方針は、優れた経済人の伝統を受け継ぐもので、富山県経済同友会の本領を発揮したものであったと思う。文化を愛する富山県経済同友会と五十嵐委員長を祝賀し、心から乾杯！

<坂本館長による講演など（今次委員会）>



第2回委員会
(講演会「万葉集って何?」)



第7回委員会
(県外視察：奈良市内)



小泉八雲の「オープン・マインド」な まなざしを現代に

小泉八雲記念館 館長 小泉 凡

昨年師走には小泉八雲をテーマとする松江視察を実施していただき、厚く御礼申し上げます。有意義な2日間をご一緒させていただきました。富山には、八雲の魂とも言うべき、2435冊の蔵書がありますが、地域資源として現代に活かされていることを嬉しく誇りに思います。また富山の経済界のみなさまの文化への深い愛着と造詣がそれを可能にしていることを知り、その尊い活動に頭が下がる思いです。

私はかねがね、作家と文学は、読者の鑑賞対象、研究者の研究対象、ファンの顕彰対象という枠組みを超えて、もっと広く社会へ活かされるべきだと考えています。2009年の初頭、アテネとニューヨークを行き来して暮らす八雲の愛読者タキス・エフスタシウ氏が「八雲文学に底流するのは、オープン・マインドという精神性。これを未来の世界へ活かすべき」だと提言。これがきっかけで、2009年10月にアテネのアメリカン・カレッジで「現代アート展”The Open Mind of Lafcadio Hearn”」が開催され大きな話題となり、その後、松江、ニューヨーク、ニューオーリンズでも開催されました。”The Open Mind of Lafcadio Hearn”という名を冠したプロジェクトは、その後も、企画展・シンポジウム・講演会、俳優の佐野史郎とギタリストの山本恭司による「小泉八雲・朗読のしらべ」など、さまざまな表現方法で今日まで継続的に実施されています。2015年にアイルランドのトラモアにオープンした”Lafcadio Hearn Japanese Gardens”（「小泉八雲庭園」）は、八雲の人生を9つの庭で表現し、それぞれにストーリーを置き、八雲の精神性を感じてもらおうという庭です。世界中から観光客が訪れ、ここで結婚式を挙げる人も少なくありません。

小泉八雲の「オープン・マインド」の定義は、いまだ明確にはなっていませんが、端的に言えば「他者（異なる人種や文化）への公平で愛のあるまなざし」のことで、共生の思想や反人間中心主義を導く土台となる考え方です。2015年に国連が採択したSDG's（持続可能な開発目標）の実現にも必要な思考だと思います。八雲は、地球半周を超える片道切符の54年間の人生で、母との別離、夢魔の恐怖、左眼失明、単身移民と赤貧、2度の感染症罹患など、さまざまなカタストロフィーに（悲劇や困難）を体験し、「オープン・マインド」の精神性をしぜんに獲得したように思えます。

2014年のギリシャ・レフカダでのシンポジウムでは、「自分がこうだと思っていることが絶対ではなく、それが最終の結論でもなく、そこから次に新しい道が開かれてゆく」という方向性が導かれ、昨年（2020年）11月に南アフリカ共和国のプレトリア大学で開催されたウェビナーでは、「ハーンのオープン・マインドは東洋と西洋、人と人、生者と死者をつなぐ。自分の思っていることだけが真実で他は不要という思考が現代に顕著にみられる。しかしハーンの思考にある統合性は分断の対極にあり、現代社会にとっても必要」というメッセージが発信され、そこには22か国、170人の参加がありました。皮肉にもコロナ禍のオンライン・セミナーゆえの成果だったのかもしれませんが。

親日派の経済学者の故 J.K. ガルブレイスは、「GDP(gross domestic product)から GNE(gross national enjoyment)の時代」へ価値観が移行することを予言し、アメリカの神学者、ハーヴィ・コックスは “to have” から “to be” の時代になると言っています。「どれだけものをつくるか」から「どれだけ人生を

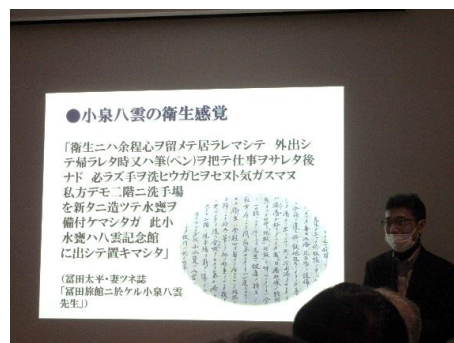
楽しむか」「どのように生きるか」へと価値観がシフトするということです。そんな時代にあって、文学は地域資源、文化資源としていっそう社会に貢献できる可能性があると思うのです。

ヘルン文庫に眠る八雲の精神性が、未来の富山に継承され、さらに世界へ発信されることを願っております。



@KOIZUMI

ラフカディオ・ハーン肖像画
(小泉館長提供)



第15回委員会（松江視察）
小泉館長によるミニレクチャー・ゆかりの地での解説

3. 委員等投稿

2019・2020 委員会活動を振り返って

委員長 (株)サプラ 相談役 五十嵐 博明

2019 年度

ジョークを連発しながらも締めるときは締める白倉担当役員と、頼りない委員長をサポートして頂くに十分すぎる強力な副委員長5名の方々と共に、委員会はスタートを切った。

新元号が「令和」に改まったこともあり、メイン事業のテーマを「万葉集」とした。まずは、古志の国文学館に相談に行くと、「万葉集を学ぶなら、高岡市万葉歴史館に協力を仰がれたらいい。」とのアドバイスを受けた。早速高岡へ向かい、坂本信幸館長に協力をお願いすると快く承諾を頂けた。こうして、万葉集勉強会の道筋が付いた。

勉強会2回を皮切りに・高岡万葉まつり「万葉集朗誦の会」(万葉衣装にて)・「越中万葉」大伴家持ゆかりの地巡り(高岡・氷見・射水)・短歌づくり勉強会・奈良万葉集ゆかりの地巡り(坂本館長ご同行)・中西進氏の講演会(会員定例会主管)・そして、中尾特別顧問の講演会で万葉集一連の委員会活動を終えた。

中でも、奈良の旅は思い出深いものになった。坂本館長のご配慮で、古事記の舞台になり日本最古とも言われる「大神神社」での昇殿参拝は本当に貴重な経験となった。二日間万葉集ゆかりの地を巡ることにより、柿本人麻呂・額田王・山上憶良、そして大伴旅人・家持等、1300年前の歌人たちの歌を通して、古の日本人の心に触れることができた。万葉の人々は、飢饉・疫病・政治不安などの危機に晒されながらも、宴や恋・歌や自然を楽しんで前向きに生きていた。

「万葉集」は、今多くの困難を抱える現代人に対する、古人からの贈り物なのかもしれない。

奈良公園の傍にある、懷石料理「夢窓庵」での夜の懇親会も良かった。宴を終えて店の玄関を出ると、月夜の庭に一頭の鹿が現れた。

2020 年度

ある朝、新聞を見ると「ラフカディオ・ハーン生誕170周年」の記事が目につき、ヘルン文庫が富山に在ることだし、この機会に「小泉八雲」を勉強しようと決めた。勉強会とハーン企画展鑑賞・中尾特別顧問の講演・勉強会・ヘルン文庫と馬場記念公園視察(コロナで書面開催だけ)・松江にて八雲ゆかりの地巡り(八雲の曾孫、小泉八雲記念館館長 小泉凡氏ご同行)が、八雲一連の活動内容だった。コロナ禍ではあったが、委員会メンバー皆様の旺盛な参加意欲のお蔭でほぼ予定のメニューを終えることが出来た。11月には、ハーンと妻セツが過ごした松江を訪ね、小泉館長のお話を聞きながらハーンが親しんだ名所旧跡を歩いた。ハーンは、松江に1年3ヶ月しか居なかったが、それから130年経った今も、松江の人々の心の中に生きていた。松江の独特な落ち着きは、ハーンの魂と不昧公が広めたお茶の文化が、長い年月の中でこの地の「文化」にまで昇華された証だと感じた。それにしても、ハーンが感じた美しい日本と日本人の心は、一体どこに行ってしまったのだろうか。「親切」「礼節」「親孝行」「信義」「少しばかりのもので満足する能力」・・・等々。

一方、現在富山大学内にある「ヘルン文庫」は、南日恒太郎氏(旧制富山高校初代校長)が旧制富山高校の新設に当たり、「新学校に優秀な教師を集め、当地を文化の中心とするに相応しい蔵書である」と判断し、学校創設に私財を投じた馬場はる氏に寄付を仰いで実現したものである。南日氏が「ヘルン文庫」を通して、この富山の地を「文化」の街にしようとした強い思いは、時が流れても忘れてはならない。

他に、委員会の2年間を振り返ると、奥田中学校バスケットボール部坂本コーチの後援会

では、八村塁選手が少年時代に富山で経験した辛い出来事が胸を打った。芸術面では、富山の江戸から明治にかけての陶芸・中央で活躍した水墨絵師達の勉強会も行った。女優壇ふみ氏・坂本館長・中尾特別顧問の鼎談（会員定例会主管）は、「お酒の万葉歌」を題材に、皆様に楽しんで頂けたのではないだろうか。また、「同友会の日」には、たくさんの方に応援に駆けつけて頂いたが、コロナ禍で一部開催出来なかったことは残念だった。

何れにしてもこの2年間、坂本館長・小泉館

長・古志の国文学館の方々・そして中尾特別顧問他たくさんの人達にご協力を頂いて、何とか活動を終えることが出来た。活動を通して、「コロナ禍で先の見えない時だからこそ、文化・芸術・スポーツに親しみ、人々が心に潤いを得ることが大切ではないか。」と強く感じた。2年間、支えて頂きました皆様に感謝申し上げます。有難うございました。

活動報告

副委員長 オダケホーム(株) 取締役社長 小竹 秀子

この2年間の文化スポーツ委員会では、多くの活動を通して、いろいろ学ばせていただきました。

「万葉集って何？」から始まり、万葉集については「越中万葉の世界」「短歌の作り方」と発展し、内容も濃く、深くなっていきました。なぜ富山県は「万葉のふるさとなのか」といったことも、改めて知る良い機会となりました。

万葉集は、天皇や貴族はもとより兵士や大道芸人、農民など、この時代を生きた幅広い層の人々によって詠まれ、人々の想いが豊かに綴られています。

大伴家持は越中の国守として5年間赴任していて、越中の風景などから95首もの歌が詠まれています。家持は雨晴海岸から見た立山連峰に、非常に感動したと言われています。

「立山に降り置ける雪を常夏に

見れども飽かず神からならし」

大伴家持

海越えの立山連峰の壮大な姿が目の前に浮

かんでくるようです。

万葉集を学ぶにあたっては、高岡市万葉歴史館館長の坂本 信幸先生や同じく学芸課長新谷 秀夫先生の講義、そして高志の国文学館館長 中西 進先生の講演会なども大変贅沢で充実した内容でした。

ここで日本文化の原点とも言われる万葉集の美しい言葉、表現力の豊かさなどワクワクしながら楽しく学んだことは忘れられません。特に思い出深いのは「万葉集ゆかりの地巡り」。奈良飛鳥路めぐりでは、坂本先生直々のご案内と解説付きという、貴重な、忘れられない研修旅行となりました。

寒さも遠のき、ようやく少し春めいて梅の花も咲き始めました。

「うぐいすの 鳴き散らすらむ 春の花
いつしか君と 手折りかざさむ」

大伴家持

大変楽しく印象深い機会をいただきました。お世話下さった皆様方には本当に感謝です。ありがとうございました。

文化スポーツ委員会に参加して

副委員長 (株)コージン 会長 小柴 順子

今次の文化スポーツ委員会は、後半新型コロナウイルス感染症拡大対策を行いながらも15回の委員会活動、同友会の日スポーツ観戦4回、定例会主管が2回と大変活発に行動する委員会でした。講師の先生方にも恵まれ、どれも素晴らしい勉強会でした。

新元号「令和」の典拠となった「万葉集」について学ぶ良い機会にもなりました。

「令和」は大伴旅人(家持の父)が開催した梅花の宴に由来していることや、「万葉集」は日本最古の歌集であり、天皇から一般農民まで身分を問わず、全20巻4,516首が選ばれていることなどわかり易く教えていただきました。

「万葉集」の代表的歌人であり、編纂者の一人でもある大伴家持は、奈良時代5年間国守として高岡市伏木に在住し、美しい自然の中で多くの歌を残しているの、富山は「万葉のふるさと」と呼ばれています。高岡市では毎年「万葉ふるさとまつり」が開催されています。そのメインイベントが「高岡市古城公園特設

水上舞台」での、三日三晩リレー形式で歌い継ぐ「万葉全集20巻朗唱の会」です。約30年前から始まり、今では市民や全国から募集した約2,000人以上の人々が、地域文化の高揚と「万葉のふるさと高岡」を全国へ発信しています。地元の知人から毎年参加していると聞いて大変興味がありました。2019年10月、ようやく委員会メンバーと参加することが出来ました。万葉衣装に着替え、水上舞台で万葉時代を想像しながら朗唱する貴重な体験となりました。2020年から新型コロナウイルス感染拡大防止により動画でつなぐ「朗唱の会」になったようです。今後も環境に応じた工夫で、長く受け継がれてきた文化を続けて欲しいと思います。

最後に、講師の先生方、正副委員長、会員や事務局の皆様方のおかげで、楽しみながら学べる文化スポーツ委員会に参加させていただき、ありがとうございました。感謝申し上げます。

文化スポーツ委員会活動報告

副委員長 (有)ジェイシーバール 取締役社長 嶋 龍仁

小泉八雲というと「耳なし芳一」。その程度の知識の私が、小泉八雲の曾孫さんとお会いできるなどと夢にも思っていませんでした。

私は、五十嵐委員長の下、副委員長を2年務めさせていただきました。私に出来る事は委員会に参加することと考え出来る限りの委員会に出席しました。文化スポーツ委員会は、前小柴委員長の時代から在籍しているので4年間富山の文化やスポーツについて学ぶ機会をいただき、少しは文化人になったと錯覚をし

ております。正直、富山県にはそれほど文化についてテーマがあるのかと思っていましたが、私の知識不足でたくさんの富山の文化を知ることになりました。昨年度は、万葉集・大伴家持を学び、高岡市万葉歴史館坂本館長と新谷課長のお話をお聞きすることが出来ました。

私は、高岡市伏木の生まれですが、地元なのにさほど知識もなく委員会で学ぶ事は新鮮な事ばかりでした。自作の短歌を読み、高岡古城公園で万葉集朗唱の会に参加しました。奈良

の視察では、坂本館長自らが案内をしてください、富山経済同友会ならではの体験だったと思います。今年度は小泉八雲（ヘルン文庫）を学びましたが、他に小泉八雲のみならず、富山市佐藤記念美術館、富山市民族民芸村、篁牛人記念館など、どこも一度は訪れた場所ですが、それぞれに新しい発見がありました。そして中尾特別顧問と高岡市万葉歴史館の坂本館長、私の憧れの人壇ふみさんを迎えてのトークセッションは、素晴らしく貴重な機会となりました。松江の小泉八雲記念館視察で、小泉八雲の曾孫となる小泉凡館長とお会いすることが出来、また凡館長自ら小泉八雲ゆかりの地を案内していただき、小泉八雲をより知ることが出来ました。なんとも嬉しい贅沢な経験が出来たと感謝しています。

委員会を通じて、多くの富山の文化を知り

学びましたが、その底辺にあるのは「守り・つなぐ」ことだと気づかされました。残念ながら、唯一開催出来なかったヘルン文庫と馬場記念講演の視察は、まさしく富山の文化を守り・つないでくれた歴史です。文化を愛でる人、文化を守る人、文化をつなぐ人。そこには富山の経済人の方々のご尽力が随所に見られます。富山経済同友会には中尾特別顧問をはじめ、素晴らしい文化人の方々がいらっしゃいます。これからも牽引していただく事を切に願います。

委員会では、昨年度に引き続き高志文学館様、そして学芸員の皆様をはじめ、多くの関係者の方々に大変お世話になりました。ご講演をいただいた方々にも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

「時間旅行を楽しむ」

副委員長 (株)スカイインテック 専務取締役 高瀬 幸忠

文化スポーツ委員会に参加して「時間旅行」を楽しんだ。時には瞬間移動したような錯覚を覚えた。令和元年7月には奥田中バスケットボールコーチ坂本穰治氏(写真左)を囲んでの懇親会でツーショット写真をゲットした。

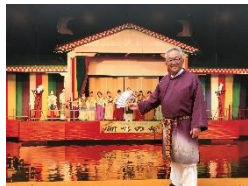


自宅で缶ビール片手にNBA八村塁選手のプレーに一喜一憂しながら、坂本コーチ(写真)に話しかけ

たりしている。既に心はNBA会場にスリップしているのか、家内の声が耳に入らない。「また夢中になって…」とお目玉を喰らって現実に引き戻される。

さて、令和元年10月には、高岡万葉まつり「万葉集全20巻朗誦の会」に参加する機会を得た。もちろん坂本信幸館長と新谷秀夫課長のお導きのもとである。

万葉和歌が詠まれた当時の衣装に着替えた頃から気合が入ってきた。手にする扇子に和歌(4212番、4213番)を仕込み、いざ奈良時代にタイムスリップ、気分最高潮で2首朗誦させてもらった。対岸に坂本館長と新谷課長を見つけ「なんと豪華な観客か」と思った瞬間、現実に引き戻された。



万葉集朗誦の余韻が残る10月下旬、坂本館長ご指導の短歌の作り方勉強会に参加した。勉強会では「大伴坂上郎女」が詠んだ1500番「夏の野の 繁みに咲ける 姫百合の

知らえぬ恋は 苦しきものぞ」

が相聞(恋愛の歌)分類の例として取り上げられた。この句が私を中学1年当時にタイムスリップさせ、若気の至りを鮮やかに呼び起こ

した。何にとりつかれたのか、放課後のクラスメイトが多く残る中、当時好きだった女子に告白を始めてしまったのだ。この時の思いを



短歌にしたいと思い、詠んでみた。坂本館長に手直ししていただき完成したのが、次の2首だ。

【告白時】

「季冬まで 告げざる思いを 昂ぶりて
ついに告げたり 悔いは先立たず」

【告白後】

「告白し 嫌われたるかと思ひおるに
思いもかけぬ 君が呼び出し」

顛末はご想像にお任せするが、短歌を推敲する中で言葉を選び、思いを凝縮する過程は貴重な経験となった。五七五七七というきまり(制約)があるからこそ、選び抜いた表現ができるのではないだろうか。

師走にさしかかった頃、何やら世の中が騒がしくなってきた。新型コロナである。文化スポーツ委員会の活動も様々な制約を受けたが、令和2年の夏頃から中尾特別顧問のお導きで小泉八雲の勉強会が始まった。令和2年11月下旬の松江訪問「小泉八雲ゆかりの地を訪ねる」に参加し、八雲の曾孫にあたる小泉凡氏(写真左)とご縁を得た。ご執筆なさった書籍を6冊購入し、兄弟や子供、同じ小泉姓の伯母にプレゼントした。凡さん直筆のサイン入り、しかも「〇〇様へ」と宛名入りだから、皆喜んでくれた。ちなみに写真奥は松江城、落ち着いた街並みにマッチした名城だと思う。小泉八雲記念館では、八雲の怪談BOOKに「耳なし芳一」や「むじな」、「ろくろ首」など、幼い頃に震えながら聞いた懐かしい話がかかれてい



くださったが、コロナ次第だからどうなるか。 としよう（笑）
まあ、怪談 BOOK 片手に、首を長〜くして待つ

「小泉八雲が見た日本の庭」

委員 ㈱久郷一樹園 代表取締役 久郷 慎治

富山と何かと縁の深い小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は、怪談「むじな」や「耳なし芳一」・「雪女」等で有名な文学者である。彼の旧蔵書(2,435冊)がヘルン文庫として富山大学附属図書館中央図書館にあり、一般にも定期公開しているので一度尋ねられる事をお勧めする。何故、富山大学にヘルン文庫が存在するのかは、別の機会に明かす事とするが、早く知りたい方はネットで検索すればすぐ判明する。

ラフカディオ・ハーンは、1850年ギリシアのイオニア諸島にあるレフカダ島で、アイルランド人の父とギリシア人の母の間に生まれ、幼くして父母と別れ、19歳でアメリカに渡った。その後、世界各地を転々とし1890年通信記者として来日し、同年、小泉節子と結婚し1896年帰化し小泉八雲と改名した。日本各地に残る民話や怪談を始め、日本人の内面や日本文化の本質を明らかにする作品を書き続けた。日本に滞在した僅か14年余りの間にこれだけ多くの著作を残した事は驚嘆に値する。アメリカで新聞記者を長く勤め、ルポライターとしても活躍した彼は文章を自在に操る能力に長けていた事は間違いないと思われる。

彼が松江に妻セツと住んだのは1890年8月から僅か1年3ヶ月だが、その間の1891年6月22日から約5ヶ月間、彼の夢でもあった旧武家屋敷に住んでいる。彼が後に著したアンソロジー新編「日本の面影」（角川文庫）の中に「日本の庭にて」という中でも一番長い作品として納められているので一読をお勧めする。とても来日したばかりの外国人が書いた文章とは思えない位に、武家屋敷の庭をつぶさに観察して書き上げた極めて濃密な作品となっ

ている。

日本人でもなかなか持ち得ない美意識と民族学者的な特異な嗅覚と合せ持っている小泉八雲ならではの作品であり、同時に彼の美文調体の文章には新聞記者出身でルポライターとしての技量が十分に活かされている。日本の庭に対する彼の眼力の深さに驚くばかりであるが、その一端を紹介したいと思う。

『日本の庭園は、庭であると同時に、一幅の絵であり、一篇の詩でもあると言える。おそらく絵より詩の要素が強いと言えるかもしれない。と言うのも、自然の風景が様々に移り変わる局面において、私達に喜びや厳肅さ、不気味さや優しさ、あるいは力強さや安らぎを与えているのと同じ様に、造園家が自然の持つその影響力を忠実に反映させれば、美しいという印象だけでなく、ある種の情感も、人間の魂に訴えかけてくるに違いないからである。』

（小泉八雲著池田雅之訳より）

又、この作品の最後の文章が特に印象的である。

『日本国中から、昔ながらの安らぎと趣が消えてゆく運命の様な気がする。殊の外日本では、無常こそが物事の摂理とされ、変わりゆくものも、それを変わらしめたものも変わる余地がない状態にまで変化し続けるのであろう。それを思えば悔やんでも仕方のないことだ。とにかくこの庭の美しさを創り出した、今は失われてしまった芸術は、万物に慰めを与えている経文の一節「草も木も、また岩も石も、まさに一切涅槃に入るべし」を奉じている宗教が生み出した芸術でもあったのである。』

（小泉八雲著池田雅之訳より）

これらの日本の庭に対する彼の文章は日本

人にとっては、日本の良さや伝統を見直す上でとても大切な相対的な示唆であると言えまいか。

それにしても小泉八雲の直感的な日本理解、とりわけ日本の庭に対する理解の深さと確かさには舌を巻かざるを得ない。先日、松江に行く機会を得て小泉八雲旧居を訪ね実際自分の

眼で当時のままのお庭を拝見した。庭園の描写文章と照らし合わせてハーンの観察眼の鋭さと確かな感性の豊かさを感じた次第である。そして改めて日本の庭の奥深さとすばらしい芸術である事をハーンから教わった気がしている。



小泉八雲 旧居（松江市）



旧居 主庭（南庭）



旧居 主庭（南庭）



旧居 西庭



旧居 西庭



旧居 裏庭（北庭）

富山を知る

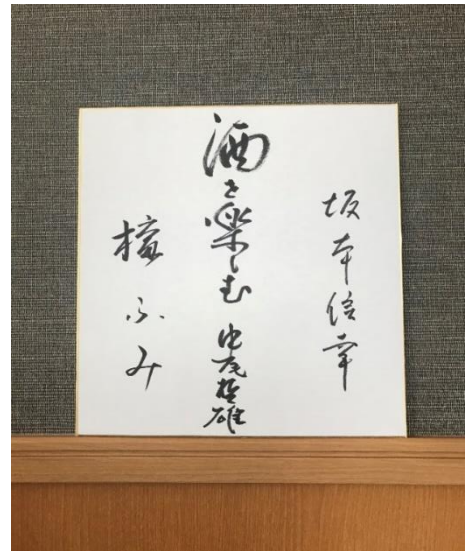
委員 (株)島田商店 代表取締役 島田 好美

五十嵐委員長の下、二年間にわたり富山の魅力を知る機会を得ました。

令和の初めに、『令和』という元号の出典となった万葉集について坂本館長様、新谷学芸課長様より講話をお聞きし、越中富山がその当時から魅力に満ちていたと知った次第です。私も写真で雨晴海岸より立山連峰を望む風景を見た事がありますが、万葉の頃もその景色は変わらず都を離れた歌人の心を癒していたのでしょう。一昨年視察で訪れた際は雨で立山は見えなかったのですが、後日晴れた日に雨晴からの立山を見に行ってその感を強く致しました。

そして、この活動のご縁で坂本館長様から短歌についてのご指導を頂くことになり一年が過ぎました。今までは思うままを三十一文字にしていたのですが、先生に厳しく添削をして頂き、また先生の思い溢れる歌を拝見する機会を得てまだまだ私も学ぶことが多くあると改めて思い知りました。

昨年11月の鼎談では、坂本先生と檀ふみ様そして中尾特別顧問から万葉集とお酒への熱い思いをお聞きし、コロナ禍の中ではありましたが貴重なひと時をご一緒させて頂きました。檀ふみ様の前では、坂本先生も中尾特別顧問もまるで少年のようになられるのですね。その時頂いたお三方の色紙は役員室に大切に飾っています。



一昨年の奈良、昨年の松江と県外への視察に参加させて頂き、万葉集や小泉八雲氏について教えを頂くとともに、委員会メンバーの方々と交流を深めることが博物館や資料館を回って様々な知識に触れながら感じたことは、富山には心を惹きつける歴史と文化が脈々と続いていて日本が誇る文化の一翼を担っている事です。出来ました。地方都市で育んできた歴史と文化は、その地に住む人々によって受け継がれていき、各地との交流によって日本文化として編み上げられていくことを教えて頂いた二年間でした。

委員会の終わりに当たり、委員長をはじめ、委員の皆様そして委員会を通じてお目にかかった皆様に心よりお礼を申し上げます。

文化スポーツ委員会を振り返って

担当役員 富山日産自動車(株) 取締役会長 白倉 三喜

当委員会は会員の教養を高め、地元プロスポーツを応援するという命題をいただき、五十嵐委員長のもと2年間活動して参りました。言うまでもなく、後半1年は新型コロナの感

染防止最優先というハンディキャップにも拘わらず、今までにない程の記録的ともいえる活発な活動を続けました。

活動の詳細な振り返りはどなたかの項にお

任せしますが、2回の県外視察旅行会をはじめ5回の県内での施設見学、8回の委員会勉強会、2回の会員例会主管。また「同友会の日」と銘打ったコロナ感染に注意しながらの地元プロスポーツ観戦。

かつては勝手に、全国に誇る「富山の持ち家率の高さ」の根源は「大伴の家持ち」などと、口から出任せばかり言っていた低俗な自分が、奈良県での現地ガイドまで御自らお勤めいただいた高岡市万葉歴史館館長の坂本先生はじめ、各施設のご案内や、勉強会を担当いただいた学芸員の皆様、そしてなかなか同友会会員でもその警咳に触れることができない、中尾大明神の特別講義など、大いに感化されたようです。令和改元後2年経ってこの歳になりようやく開眼とまでは行きませんが、目を覚まされた思いです。

一番思い出深いのは、ある時の勉強会で、出席メンバー皆が坂本先生から出された宿題の

自作の歌を2首ばかり持ち寄って披露し合いました。いつもの調子で作ったところ、先生からは貴方のは「狂歌、川柳、狂句」にも程遠いと褒められ？ました。

めげずに最後にしつこく。もう若くはありませんが、季節の和歌を一首

コロナと黄砂と花粉に悩まされる季節に、黄砂の一番酷いといわれるある交差点にて

黄砂降らば 花粉散らせよ 杉の花
アレジオン無しとて マスク忘るな

(元歌：東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花
主なしとて 春なわすれそ)

諸先生方、五十嵐委員長、副委員長はじめ委員の皆さん、事務局の有藤局長、吉川さんはじめ皆様有難うございました。

高岡万葉まつり「第30回全万葉集20巻朗唱の会」の思い出

事務局長 有藤 直樹

五十嵐委員長1年目(令和元年度)の事務局担当をさせていただきました。着任した6月下旬には年間スケジュールが既にできており、万葉集をテーマに委員会6回、会員定例会1回と合計7回開催されるのを初めて知った時には、回数之多さに大変驚きました。担当者としてちゃんとこなせるか少し不安な気持ちになりましたが、それもすぐに解消され、大変楽しく学ばせていただきました。高岡市万葉歴史館の坂本信幸館長と新谷秀夫学芸課長には準備も含めて大変お世話になりました。

10月6日に参加した高岡万葉まつり「第30回万葉集全20巻朗唱の会」は本当に楽

しかったです。高岡古城公園で3日間かけて万葉集4,516首を歌い継ぐ行事で、私たちは最終日の参加であることから、後半の歌(4,207番～4,232番)を割り当てられました。

当日は会員12名、事務局員2名で参加しました。会場ですぐに万葉の衣装に着替えましたが、衣装の色が鮮やかでなんだか役者になったような気分になり、私の胸は歌う前から高鳴りました。水上特設ステージに14人一列に並び、一人1首から2首を順番に歌い継ぎましたが、全員歌い終えた時は一致団結して物事をやり遂げたような達成感を感じま

した。その後の大野屋旅館での昼食会（反省会）も朗唱の会を話題に会話が弾みました。

朗唱の会の3週間後、「短歌の作り方」の勉強会が開催されました。各自が作った短歌を事前に坂本館長に提出、当日は自分の短歌を詠みあげたあと坂本館長からコメントをいただきました。事務局も1つは提出しようということになって私は何日間か悩みました。悩んだあげくに、朗唱の会を題材にして「いにしえの 衣装をまといて 舞台立つ 終わった

あとの ビールがうまい」となんともお粗末な歌を作りました。坂本館長はこれをアレンジし「万葉衣装を 初めてまとい 立つ舞台歌う前から 喉は乾けり」、「高らかに 歌を朗誦せし後の 喉の渇きに ビールが旨し」と2首歌われました。なるほど、修正いただいた短歌の方が情景が頭に浮かんできます。言葉に対するセンスを磨かねばと反省しました。

本当に高岡万葉まつり「第30回万葉集全20巻朗唱の会」参加は貴重な体験でした。

言葉の力 ～事務局員として得た貴重な経験～

事務局 主席経済交流員 吉川 賢一

2020年4月1日、事務局への初入社時に“文化スポーツ委員会担当”と言われた時は、かなり不安でした。恥ずかしいことにこれまで、芸術・文化・スポーツにほとんど触れる機会を持たず、あまりにも無知なことを悔やみました。

五十嵐委員長に初めてお会いした際に、綿密に練られた2020年度の活動計画を提示いただきました。その時に「経済人として、富山ゆかりの芸術・文化をもっと知り、語り継いでいくきっかけとなれば」との想いを伺い、感銘を受けました。これ以降、芸術・文化の知識は無いけれども「少しでも良い委員会活動とするために事務局員としてどうサポートすべきか」という想いだけで進んできました。不器用なため、至らない点多々あったものと反省しきりであります。

活動をサポートさせて頂く中で、多くの貴重な経験を得ました。とりわけ、以下の2つが大きいものと感じております。

1つ目は「出会い」です。委員・会員の皆様はもとより、高岡市万葉歴史館の坂本館長様、小泉八雲記念館の小泉館長様をはじめ講演をいただいた皆様など、富山市職員として

通常の業務を担当しては中々お会いできない方々に、様々なお話を聞かせて頂きました。お話を伺う中で、現在に至るまでの苦労や信条、人柄などの一端に触れることができました。事務局担当者として温かく迎え入れていただいたことと併せて、感謝に絶えません。

2つ目は「言葉」です。委員や講師の皆様から頂いた言葉・発言は、私が得られた最も貴重な経験と呼ぶに相応しいと思っております。そこには、こちらの想いが通じたこと、共感頂けたことに対する素直な喜びだけでなく、有形無形を問わず「学び」として得られたものがあると感じています。また、言葉の裏側や、いわゆる“行間”にある想いも重要であると思います。冒頭にご紹介した五十嵐委員長の言葉をはじめ頂いた言葉・印象に残った発言が数多くあり書き切れませんが、ごく一部をご紹介します（一部、お名前を掲載しております）。

「春以来ほとんどのイベントに行けず、家族で出かける事がなかったので、久しぶりに楽しく過ごしました。ありがとうございました」

「同友会の日」にご家族で参加の委員

「経済人として、富山の芸術をもっと勉強

せにゃならん」 久郷常任幹事

「今年度はたくさん活動を実施している。
事務局の吉川さんに苦勞を掛けているが、引
き続き進めていきたい」 白倉常任幹事

「いつもありがとう」 多くの委員の皆様
「生きるということは、自分の価値を世に
問うていくこと、そのために絶えず自己の
価値を高めていく努力をすることだと思う」

中尾特別顧問

これらの言葉（とその裏にあるもの）は、これ
からの私にとって、様々な場面での糧・羅針盤
となるものと思っています。

辞書によると“言葉”とは「音声や文字など
により表され、特定の意味を伝達する手段と

なる表現および表現の体系のこと（weblio
辞書より引用）」とあります。芸術・文化・
スポーツに対する直接的な知識は未だにあり
ませんが、これらを体系化するだけでなく、
何よりも、時代や世代を問わず感動を与え、
人々の生活を豊かにするものとして価値を
創造し伝承されていく過程において、言葉が
大きな役割を担っているということを学んだ
ように思います。目には見えないものの、言葉
の持つ大きな力を改めて感じました。

末筆に、中尾特別顧問、白倉常任幹事（担当
役員）、五十嵐委員長はじめ副委員長・委員の
皆様、講師の皆様に改めて、心より感謝申し
上げます。

4. 活動の記録

<令和元年度>

第1回委員会 (7/22)

2019 活動計画、講演会「成長への道、成功への扉」

(講師：奥田中バスケットボール部コーチ 坂本 穰治氏)

「同友会の日」(9/1)

富山 GRN サンダーバーズ ホームゲーム観戦

第2回委員会 (9/5)

講演会「万葉集って何？」

(講師：高岡市万葉歴史館 館長 坂本 信幸氏)

第3回委員会 (9/25)

講演会「入門・越中万葉の世界 -なぜ富山県は「万葉のふるさとなのか」-」(講師：高岡市万葉歴史館 学芸課長 新谷 秀夫氏)

第4回委員会 (10/6)

高岡万葉まつり「万葉集全20巻朗読の会」参加

第5回委員会 (10/19)

「越中万葉」大伴家持ゆかりの地 視察(高岡・氷見市内)



「同友会の日」(10/20)

カタレ富山

ホームゲーム観戦



第6回委員会 (10/25)

勉強会「短歌の作り方」

(講師：高岡市万葉歴史館 館長 坂本 信幸氏)

第7回委員会
(11/12~13)

県外視察「万葉集ゆかりの地巡り」(奈良市内)



11月会員定例会主管
(11/20)

講演会「日本文化の原点—『万葉集』をひもとく」
(講師：高志の国文学館 館長 中西 進氏)



第8回委員会 (1/31)

講演会「美しい日本のことば」(講師：中尾特別顧問)

<令和2年度>

第9回委員会 (6/17)

2020 活動計画、高志の国文学館企画展 鑑賞
(解説：同館主任(学芸員) 綿引 香織氏)

「同友会の日」(8/16)

富山 GRN サンダーバーズ ホームゲーム観戦



第10回委員会 (8/26)

講演会「小泉八雲と富山」(講師：中尾特別顧問)

第11回委員会 (9/7)

勉強会「富山ゆかりの芸術について」

(講師：富山市佐藤記念美術館 館長 坂森 幹浩氏)



第12回委員会 (9/16)

「ラフカディオ・ハーン」勉強会

(講師：高志の国文学館主任(学芸員) 綿引 香織氏)

第13回委員会 (10/10)

勉強会「富山ゆかりの芸術について」

(講師：富山市民俗民芸村陶芸館 学芸員 高木 佳美氏、
同 篁牛人記念美術館 館長 木村 昌弘氏)

「同友会の日」(10/18)

カターレ富山 ホームゲーム観戦

第14回委員会 (書面)

小泉八雲ゆかりの地を訪ねる (富山版)

11月会員定例会主管

鼎談「檀ふみさんと語るお酒の万葉歌」

(11/8)

(檀 ふみ氏、坂本 信幸氏、中尾特別顧問)



第15回委員会
(11/26~27)

県外視察「小泉八雲ゆかりの地を訪ねる」 (松江市内)



「同友会の日」(3/24)

富山グラウジーズ ホームゲーム観戦

5. 委員名簿（2021.3時点）

	氏 名	会社名・役職名
特別顧問	中尾 哲雄	(株)アイザック 相談役
担当役員	白倉 三喜	富山日産自動車(株) 取締役会長
委員長	五十嵐 博明	(株)サプラ 相談役
副委員長	小竹 秀子	オダケホーム(株) 取締役社長
副委員長	小柴 順子	(株)コージン 会長
副委員長	嶋 龍仁	(有)ジェイシーバール 取締役社長
副委員長	高瀬 幸忠	(株)スカイインテック 専務取締役
副委員長	松嶋 重信	(株)レシーム 専務執行役員
委員	浅野 雅史	(株)バロン 代表取締役
	荒井 進	ジェイアールエム(株) 参与
	池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店 代表取締役
	石倉 央	(株)FP 不動産センター 代表取締役
	伊勢 徹	(株)ライフサービス 代表取締役
	伊勢 彦信	イセ食品(株) 取締役会長
	市森 友明	(株)新日本コンサルタント 取締役社長
	上野 等	北陸電力(株) 執行役員富山支店長
	遠藤 忠洋	富山交易(株) 取締役社長
	大井山 行雄	大松青果(株) 取締役社長
	大野 賢治	菱機工業(株) 取締役富山支店長
	岡部 竜一	(株)岡部 代表取締役
	岡本 肇	(有)岡本研工業 代表取締役
	小川 哲哉	富山新聞社 理事・代表
	押川 実恵	北陸ミート(株) 代表取締役
	片岡 健太郎	デンカ(株) 北陸支店長
	金尾 雅行	富山港湾運送(株) 取締役社長
	川合 紀子	(有)ステップアップ 代表取締役
	北澤 真一	(株)I H I 北陸支社長
	久郷 慎治	(株)久郷一樹園 代表取締役
	下条 良子	シンコー運輸倉庫(有) 代表取締役
	小杉 康夫	G R N(株) 専務取締役
	駒澤 信雄	(株)北日本新聞社 取締役社長
	酒井 正人	富士商事(株) 取締役社長
	笹谷 幸子	太陽興産(株) 代表取締役
	佐藤 幸博	(株)柿里 取締役社長
	鹿田 晃彦	三機工業(株) 執行役員北陸支店長
	島田 好美	(株)島田商店 代表取締役
	杉浦 孝典	(株)J T B 富山支店長
	曾根 豊	(株)富冷 代表取締役
	高田 順一	阪神化成工業(株) 取締役社長
	高田 千明	高田食糧(株) 取締役社長
	高林 幸裕	北電産業(株) 取締役社長

	竹内 茂	(株)婦中興業 取締役社長
	武内 孝憲	(株)牛島屋 代表取締役
	辻井 益雄	(株)富花 取締役会長
	堂田 重明	(株)福見建築設計事務所 取締役会長
	中崎 俊也	(株)大和富山店 取締役店長
	長崎 衛	富山糧穀(株) 代表取締役
	永田 義邦	(一財)北陸予防医学協会 理事長
	西 隆行	(株)神戸製鋼所 北陸支店長
	西島 ことぎ	(株)富山プレート 代表取締役
	西野 秀明	みずほ信託銀行(株) 富山支店長
	長谷 佳子	(有)小杉スポーツ 代表取締役
	平田 一彌	平田印刷(株) 取締役社長
	平野 泰康	ハイテック(株) 会長
	廣田 健一郎	廣田司法書士・土地家屋調査士事務所 代表
	福田 可也	(株)クレハロ 代表取締役
	藤井 邦之	日本製鉄(株) 北陸営業所長
	藤井 裕久	(株)藤井産業 取締役会長
	堀井 文夫	初音工業(株) 取締役社長
	牧 真奈美	(株)クルサー 代表取締役
	牧田 和樹	(株)牧田組 取締役社長
	増山 一雄	増山電業(株) 代表取締役
	松島 和美	(株)オフィスてるてる 代表取締役
	松田 光司	北陸電力(株) 取締役常務執行役員
	宮本 一成	全日本空輸(株) 富山支店長
	村尾 于尹	(株)村尾地研 取締役会長
	村本 幸雄	ムラモトユニフォーム(株) 代表取締役
	森田 清司	(株)読売新聞東京本社 北陸支社長
	森野 弘樹	北陸電力(株) 事業開発部長
	柳川 三千代	(株)モーヴ 代表取締役
	山岡 昭一	三菱パワー(株) 北陸支社長
	山口 昌広	北酸(株) 取締役社長
	山田 彰弘	(株)カターレ富山 取締役社長
	山田 恵子	山田工業(株) 取締役社長
	山田 秀夫	(株)山田写真製版所 代表取締役
	山田 由理枝	(株)山秀木材 専務取締役
	山野 昌道	(株)チューリップテレビ 取締役社長
	山村 隆彦	(株)日立製作所 北陸支社長
	山本 毅	山本毅法律事務所 代表者
	吉岡 隆一郎	(株)文苑堂書店 取締役会長
	林 広麗	(株)林インターナショナル 代表取締役
	渡邊 清隆	(株)富山市場輸送 代表取締役
	綿谷 雅代	ワタヤ自動車(株) 会長



富山経済同友会 〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテックビル4階
tel. (076) 444-0660 / fax. (076) 444-0661
ホームページ <http://www.doyukai.org>